

水は誰のものでしょうか 水はみんなの共有財産です
水をあつめたり くぼったり 捨てたり 避けたり
そして、何よりも 楽しんだり 恵みをいただいたり

わたしとあなた そして水とかかわりを持つ人全員が
水を活かし治める主人公になりましょう

東京の水連絡会

PHOTO 緑に囲まれた小河内ダム

東京都の水道水は余っています

1964 年の東京オリンピック。東京は人口増加に追い付かず水源不足は深刻でした。そのため小河内ダムだけでは足りず、遠く離れた利根川・荒川水系に建設されるいくつかのダム等に水源を求めてきました。多くの自然とそこに住んでいた人たちの生活を破壊して、大東京は成り立ってきたのです。ハッ場ダム事業はその当時からの計画です。

しかし、1992 年から配水量が減り続け、今では水源が有り余っているのに、東京都水道局は将来水が足りなくなると言っています。なぜでしょう。そう言わないとハッ場ダムなどの建設根拠が失われるからです。現在、東京都全体の保有水源量は約 700 万 m³/日もあります。実際使われる水道水は 1 日最大で約 470 万 m³/日です。230 万 m³/日も余っています。これ以上、ハッ場ダムなどに水源を求める必要はありません。

今必要なのは、余っている水源を返上して利根川等の自然の回復を図ることです。



東京都の水源林 笠取山の切り株に咲いた小さな花

無意味なスーパー堤防を中止させましょう

スーパー堤防ってご存知ですか。超過洪水対策と称して幅が非常に広い堤防をつくり、その上を住宅地などに利用しようというものです。江戸川区では区が江戸川や荒川沿いに住む住民を区画整理で数年間以上、強制的に立ち退かせ、国がそこにスーパー堤防を築造する事業が行われてきています。しかし、スーパー堤防ができたのはほんの一部だけで、計画通りに整備を終えるには 700 年以上の年数が必要です。これで治水対策といえるでしょうか。こんな実現性のないスーパー堤防事業のために住民を強制移転させるなんて、人権蹂躪ではないでしょうか？

地下水は最も安全でおいしい水道水源 これまで通り使い続けよう

都心の地下鉄などでは今地下水が湧き出ています。過去には地下水をくみ上げすぎて地盤沈下が進行した地域がありました。しかし、現在は地下水くみ上げが規制され、くみ上げ量が大きく減ったので、地盤沈下は沈静化しています。それなのに東京都は水道水源としての地下水使用を減らしています。遠くのダム等の水源に切り替えようとしているのです。

給水車 東京都は何台持っているか知っていますか？

東京にもし直下型地震が起きたら、東京都の上下水道は大丈夫でしょうか。被災後に水道や下水道を復旧させる技術者が足りません。合理化で人手を減らしてしまったからです。命の水を配る給水車はたった 14 台しかありません。



そんな東京の水の問題に、私たちは関心を持ち、現場を見て調査し、行政と対話し、私たちにとっての水行政を追求していきます。